

## 第184回 番組審議会

1. 日 時 平成21年7月14日 (火) 12:00～
2. 場 所 メトロポリタン盛岡NEW WING 3F 「星雲東の間」
3. 委 員 委員総数 13名  
出席委員数 11名 (欠席委員数 2名)

### ○ 出席委員 (敬称略)

中村 慶久 (委員長)  
椎井 一意 (副委員長)  
—以下50音順—  
久慈 浩介  
斎藤 純  
斎藤 雅博  
東海林 千秋  
菅原 正二  
中川 真  
中原 祥皓  
村上 幸子  
八木橋 伸之

### ○会社側出席者 (6名)

佐藤 滋樹 (代表取締役社長)  
小原 忍 (専務取締役)  
藤澤 利憲 (常務取締役)  
前田 秀男 (取締役編成技術局長)  
高橋 聡 (めんこいエンタープライズ 制作部 担当部長)  
鎌田 淑子 (めんこいエンタープライズ 制作部 主任)

### ○事務局 村田 重昭

#### 4. 議 題

FNSソフト工場

「ことわざは一見に如かず ことわざ実証バラエティー」

平成21年6月5日（金） 19:00～19:57放送

#### 5. 議 事 概 要

今回は、FNSソフト工場「ことわざは一見に如かず ことわざ実証バラエティー」について審議した。

各委員からは「東京のスタジオで吉本興業の芸人を使って収録するなど、めんこいテレビの番組としてインパクトがあった。」、「ことわざ本来の意味を紐解いて、その信憑性を実証するという番組のコンセプトは良かった。」という意見がありました。

一方「1本1本のことわざについての作りが長過ぎて途中で飽きてしまった。」、「“喉元過ぎれば熱さ忘れる”のことわざを検証する場面では、熱いおでんを無理に食べさせていたが、子供達が真似をするかもしれないので、やめたほうがいい。」などの意見もありました。

#### 6. 議 事

##### ○事 務 局

ただいまより第184回番組審議会を開催いたします。

本日まで出席の委員は11名、ご欠席は役重委員と吉田委員のお2人です。

今回の議題は、6月5日（金）に放送されました「ことわざは一見に如かず ことわざ実証バラエティー」です。本日は番組制作にあたっためんこいエンタープライズの高橋担当部長とディレクターを務めためんこいエンタープライズ制作部の鎌田淑子が出席しております。

それでは、中村委員長よろしく願いいたします。

##### ○中村委員長

中村でございます。本日もよろしく願いいたします。

さっそく議事に入りますが、最初に高橋さんと鎌田さんから、制作側の立場でのご説明をお願いいたします。

##### ○高橋担当部長

めんこいエンタープライズの高橋です。よろしくお願いいたします。最初に今回の「FNSソフト工場」について簡単に説明させていただきます。「FNSソフト工場」はフジテレビ系列の制作力の向上と、人材育成をはかるシステム作りを目的として1999年に始まりました。今年で11回目となります。平日の午後7時台の視聴者層をターゲットに良質な番組、視聴率の取れる番組をコンセプトに、系列局が番組制作の腕を競うというもので、北海道・東北ブロック、中部ブロック、近畿・中国・四国ブロック、九州・沖縄ブロックの4ブロックに分けて、各ブロックからそれぞれ2作品ずつを出品することになっています。ブロックごとに企画会議、プレゼンテーションが行われております。

めんこいテレビは今年の「ことわざは一見に如かず」去年の「map mystery はい地〜図!」一昨年の「最古路次」と3年連続での制作となりました。系列各局を見ても3年連続というのは数少ない制作実績です。めんこいテレビの企画力、制作力が高い評価を得ているものだと考えております。

今回の「ことわざは一見に如かず」は6月5日金曜日に午後7時からのゴールデンタイムで放送されました。視聴率は12.7%。同時帯の平均視聴率が15%前後と考えますと、レギュラー番組ではなく単発の番組でこの12.7%という数字は、一応合格点と言えるのではないかと考えております。フジテレビでの深夜帯での放送が6月末に終わります。今後は系列各局のローカル枠の中で順次全国放送されていく予定でございます。番組の企画意図、内容については総合演出を務めました鎌田の方から説明させていただきます。本日はよろしくお願いいたします。

#### ○鎌田ディレクター

同じくめんこいエンタープライズの鎌田です。よろしくお願いいたします。総合演出として、この番組を担当しました。他には盛岡でのゲリラライブ、路上ライブを担当した者と、盛岡グランドホテルでの披露宴のケーキの制作を担当した者が居りまして、この二人には強気にサポートしてもらいました。今回、東京のスタジオで収録を行いました。制作部総出で携わる事ができました。

いろいろ振り返りますといい訳じみてしまいますので、私としていい点と悪い点を2つ申し上げたいと思います。悪かった所はやろうと思う事を全部やっちゃって、ちょっと散漫になってしまったことです。見易さに欠けてしまったことを少し反省しています。

良かったと思う点は制作部がひとつになって、今回の番組作りに携われたことだと思って

います。前日から皆一睡もしないで準備をして、皆で東京のスタジオに新幹線で向った事を思い出しました。今回、いろいろな番組を作ってきた仲間とスタジオに行って、その力を発揮できた本当に良い機会だったと私は思っています。番組の出来栄えはもちろん重要だと思っているのですが、それ以上に皆で作るという本当に良いチャンスを今回はもらえたと思っております。次もぜひ「ソフト工場」の番組を作る機会を得て、また来年も再来年も続けていきたいと思っております。本日は皆様のご意見を頂戴して次につなげていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

#### ○中村委員長

どうもありがとうございました。それでは委員の方々からご意見を伺いたいと思っております。中川委員からお願いいたします。

#### ○中川委員

このところバレーボールのコーチングキャラバンとか、野球の花巻東とか、がけっぶちナースとか、けっこう重量級のドキュメンタリー系の番組が続いていましたが、今回はのんびり楽しませてもらおうと思って番組を拝見しました。こういう企画にチャレンジされるのは、本当に素晴らしいことだと思います。番組に出演した野牛アナも、上手く出演者の人と絡んで頑張っていると思えました。個人的には路上ライブで盛岡の人たちの温かみが画面を通して伝わってきて、とても面白かった。ただあんなに千円札を入れてくれる人がいるのでしょうか？ちょっと私の感覚としては意外でした。それを含めて楽しく見させていただきました。

その上でちょっと申し上げたいことがあります。先ほど良質でなおかつ視聴率の取れる番組というお話がありましたが、むしろ私はもっとバラエティ色が強くて、ドタバタがあっても良かったと思います。特にフジテレビはバラエティー路線のイメージが昔から強いので、めんこいテレビももう1歩踏み込んで羽目を外されても、こういう番組の場合はいいのかな、などと勝手に思いました。もうひとつ、寒い季節の映像だったのですが、放送されたのが6月で、少し季節感という点で違和感があったというのが感想です。でも、大変楽しく見させていただきました。

#### ○中村委員長

ありがとうございました。それでは続きまして斎藤純委員からお願いいたします。

○斎藤純委員

ぱっと見て、この番組は番組審議会では不利だなと感じました。たぶん想定している視聴者層とだいぶズレがあると思いますので、高橋さん、鎌田さん、あまり気にしない方がいいかもしれません。私もこういう機会でもなければ、たぶん見る事がなかったと思います。

いいものを見たな、面白いものを見たなという感じがしました。知っているつもりでいて、どれも知らないことばかりでした。己の不明を恥じたような次第です。「紅をさす」と「目薬をさす」が同じ語源だというのは私もびっくりしました。「芸は身を助ける」の時にはおそらく「ゲイ」を出すのかと思っていたのですが、出ませんでしたね(笑)

中川委員からお話がありましたが、収録から放送まで間が空いています。それがちょっと惜しかったですね。本は全部、鎌田さんがお書きになったのですか？

○鎌田ディレクター

基本のあらすじは私たちですが、構成作家は東京の外部の方をお願いしました。キャスティングはめんこいテレビです。

○斎藤純委員

出演者のキャスティングは東京で決まっていたのではなく、こちらで行ったのですね。おもしろいキャスティングで良かったと思います。この間、何かの番組を見ていたら、日本語が得意な外国人にインタビューするコーナーがあって、その外国人は一般の人なのですが、洒落とか日本語の熟語に対する理解とか、ことわざに対する理解がすごく面白かったです。そういう意味で、外国人がひとり入っていても面白かったかなと思いました。

○中村委員長

それでは続きまして菅原委員からお願いいたします。

○菅原委員

全くの私の個人的な意見ですので・・・こんな退屈な番組見た事がないですね。眠くて眠くて、番組1本を見るのに3回分けて見ました。取り上げていることわざの件数が少ない割

りに、その1本1本が長過ぎる。2階から目薬を落とすのに、あんなに時間を割くなんて非常識ですよ。馬鹿馬鹿しくて下らなくて腹が立ってきて、そこで1回やめました。次も見ましたが、次のも長い！斎藤委員がいま初めて知ったと言うけれど、あれは全部程度の低いことわざですよ。誰だった知っていることなのに、あんなに時間をかけて・・・次のことわざもまた寝た、3回に分けてようやく最後まで貫徹して見たのですが、あれではチャンネルを変えますよ、私だったら。それとあの馬鹿ふざけね、東京のスタジオの芸人の馬鹿ふざけは意味ないですね。

学術調査とか実証検分といっている番組なのに、あのレベルでやられたのでは、とてもじゃないけど私の年齢では付き合いきれません。だからさっき斎藤委員がいきみじくも言ったように、分かれるのです。あれで面白いという人もいると思うのです。でも私はそれほど若くないし、こんな退屈な番組を全部見るのは辛かった。しかも、内容は大したことは言っていないです。NHKの番組「世直しバラエティー カンゴロンゴ」のようにもっと深く掘り下げて、本当に難しいことわざとか、もっと含蓄のあることわざが出てくるのかと思っていたら、あのレベルではちょっと・・・

これは誰をターゲットするかという問題です。ですからここで論ずるにはちょっとズレが生じると思うのです。ここの番審に中2の女の子がいればいいのですが、いないのです。かつて、この番組審議会がスタートする前に、もう18年も前の話しですけど、横澤彪さんにフジテレビでお会いしたことがあるのですが、その時に横澤さんは「僕は中2の女の子を対象に作っています」と言っておられました。

我々がここでとやかく言っても、それが正しいとは言い切れませんし、それで視聴率が取れるとも思わないです。ですからこれはまったく勝手に言うしかないのですが、番審の中にも中2の女の子を入れるべきなのです（爆笑）

私には、とても間延びしてたまらなかつた。具体的に言うと、もっとことわざの件数を増やしてひとつひとつを手短にすればいいと思います。路上ライブも長過ぎた。あれではとてもじゃないけど長すぎます。もっとテンポを早くして1個1個変えて、もっといっぱい出せばまだ救われたと私は思います。番組を全部見届けるのは、今回は大変しんどうございました。後は、久慈委員のようなお若い方の意見を聞いてください。後はお任せします。

○中村委員長

ありがとうございました。それでは次に、八木橋委員にお願いいたします。

## ○八木橋委員

ことわざを現代に生かす、バラエティー風にするという狙いは良くわかりました。考え方としては非常におもしろいと思います。菅原委員も言っていたように樹木希林がやっている「日本語歳時記 大希林」とか、平幹二郎がやっている四文字熟語の番組「世直しバラエティー カンゴロンゴ」。それらと比べてどちらが楽しいか？ですね。年代的に言うと今の若い人より、おそらくある一定層以上の年齢の人の方がことわざに馴染んでいます。若い頃にお年寄りから聞いたことわざがたくさんありますから。ことわざを身近に見られる番組にするには、もう少し中年以上の視聴者を考えてくれれば見やすかったという感じがします。

しかも、いろいろな芸人さんが出てきましたが、ほとんど私らの年代の人は名前を知りません。芸人さんがいろいろ出てくけどテロップがちょっと流れるだけで、何でこの人たちが出てくるのか私にはよく分かりません。そういう意味では、対象がどういった人になっているのかによって感想は変わるのだと思います。番組は、おもしろくバラエティー風に作られていましたが、おもしろさの意味がよく伝わってきませんでした。

ことわざに馴染んだ人たちには年寄りが多い、ということをおもっていただければという気がしました。先ほど菅原委員はことわざをたくさん入れて、もっとひとつひとつのことわざを紹介する時間を短くして欲しいと話しておられましたが、逆の線もあると思います。ことわざを少なくして深くするという手もあると思うのです。

「三人寄れば文殊の知恵」ということわざは期待して見ていたのですが、文殊菩薩の絵が1枚出てきただけでした。文殊というのはどの如来さまとの関係で、どういう菩薩像で、なぜ知恵があるのかとか、その辺の解説が全然ないと、三人寄ってやっとならぬとならぬとか、意味が全然分かりません。あの絵一枚で分かれというのはちょっと難しいですね。せつかく648年創建の古い文殊菩薩という話題があつて、そういう良いものを紹介しておきながら、あれもテロップ一枚でやっとならぬとならぬもったいないですね。同じ時間をかけるなら、以前めんこいテレビの奥の細道の番組でやったように、どなたかにお坊さんの格好させて解説させるとか、なにかそういうものがないと、なぜこのことわざが出てきたのかよく分かりません。そういうことをやっとならぬとならぬも、非常におもしろかったという気がします。

もうひとつ、路上ライブで盛岡が出てきますが、見ていて盛岡の番組なのか、どこで作っているのかがよく分かりませんでした。もっとも盛岡であることが分かることが、良いのかどうか分からないのですが。画面にわざと「めんこいジョークは嫌いです」とテロップが出たので、めんこいテレビ制作と分かったのですが、どこで番組を作ったのかがよく見えて

こなかった気がします。

個別的な部分で言うと「二階から目薬」はおもしろかったのですが、塗り薬から液体になった時代がよく分かりませんでした。江戸時代に塗り薬になって、水薬になったのがいつからなのかははっきり言っていませんでした。二階から目薬を落とす時に、タオルを落とした芸人さんがいましたが、塗り薬を落としたらあんな感じになるわけですよ。目薬が液体化したのがいつ頃で、ああいうことわざがいつできたのかがよく分からない。ただ個人的には「芸は身を助ける」の大道芸は、あれでアワビが食べられるぐらいあんなにお金が集まって、びっくりしました。あれはおもしろかった。

先ほどお話した文殊のところは、私はもう少し詳しくやってもらいたかったですね。そういう意味で絞って詳しくやるか、それとも短くして目先を変えるか。その辺をどちらかに絞ってやってもらうとおもしろかったのかなと思います。そういう意味では、年齢層的にことわざ非常に親近感をもっている人を対象にするという意味ではきつかったと思います。

ことわざを現代に生かすという意味では新しいものを感じましたし、他の番組とは違う新しさも感じました。あとは生かし方だと思います。

#### ○中村委員長

ありがとうございました。それでは次に、齋藤雅博委員にお願いいたします。

#### ○ 齋藤雅博委員

ことわざ本来の意味を紐解いて、その信憑性を実証するという番組のコンセプト自体は、非常に良いと思います。出演者も山崎バニラ始め、けっこう今時のお笑い芸人を使っていて、だいぶ力が入っているなという感じで最初は見ました。みなさんお話しされたように内容的には、うちには中学生がいますが、あのメンバーを見て最初からお笑いだと思って見ました。

そういう意味でバラエティー番組だと思いますが、ことわざの由来が入っていましたので、どっちつかずというか、よくわからない番組だったと思いました。むしろお笑い芸人を使わない方が、ことわざが強調されたのではないかと思います。お笑い芸人を使ったために何となく焦点がぼけてしまった気がしました。

選んだことわざも何か全然関連性とかテーマ性がなくて、何でこのようなことわざを選んだのか分かりませんでした。テーマ性があったら、もっとおもしろかったのかな、と思って見ておりました。



バラエティー番組なので賑やかなのは分かりますが、画面が賑やかでうるさいところがけっこうあったような気がしました。個人的におもしろかったのは、ことわざ学会で新しいことわざを認定していたことです。あれは本当なのかなと思いましたが、ことわざ学会の部分はおもしろいと思って見ておりました。

もう1点、路上ライブは全部盛岡だったと思いますが、事前に開示しないでいきなりやっているわけですね。それはそれでいい面はあると思いますが、あれ位おもしろい人が来ているのであれば、公開収録をしても良かったのではないかと思います。今、商店街とか人通りが少なくて困っているので、パフォーマンスとして人集めをやっても、効果自体は変わらないところがあると思いますので、地域活性化のための公開収録になったとしても、あの番組はおもしろく見る事ができたのではないかと思います。

#### ○中村委員長

ありがとうございました。中原委員、お願いいたします。

#### ○中原委員

私は番組審議会の委員という立場で構えて見てしまったので、ちょっと真面目に考えすぎたかなと思います。この番組はどこに焦点を絞っているのか考えると、若者か、もっと若い人達かなと思いました。それはなぜかという、番組に出てきたことわざは、僕らの年代から言うと当たり前のこと、普段身にしみて知っていること、当たり前のことわざです。僕らを範疇外としてみるならば非常におもしろかろうと思います。真面目に見てしまうと、菅原委員的な発言になってしまいますので、それをちょっと違うのだらうと思います。

私はことわざに非常に興味がありまして、知らないことわざが出てくるのかな、次は何だろうと思って見ていました。そのなかで、ひとつだけ深く知りたいと思ったことわざがありました。それは「嫁を選ぶなら土曜日に選べ」ということわざで、その他は別に知りたいと思わなかったのですが、これはもっと深くやってほしいと思いましたが、そうではなかったですね。

この種の番組というのは見る人によって相当差があると思います。そこで鎌田さんに一番聞きたかったのは、どの辺のレベルの人に視点を置いて制作したのかということです。テレビというのは、学ばせるとか、視聴者がある程度見て参考になったとか、おもしろかったとか、見て良かったという部分がないと、せつかくの電波がもったいないという思いがするの

で、ターゲットがどのあたりなのかお聞きしたいと思いました。

もうひとつ、「喉もと過ぎれば暑さを忘れる」ということわざがありました。おでんでやったのはちょっと無理だったのではないかと思います。おでんをあのように食べる人はいないですね。普通の段階で出来ることで教訓を与えるべきで、あのように無理強いしてやればたいがい熱いですよ。おでんを食べる場合に、あのように無理やりという事は普段ありません。バラエティーだからいろいろなものをやっても構わないという事ではなく、ある程度常識的なものから意外なものを分からせる、あるいは笑わせるというようなものでないと、何か私たちから見ると別世界でやっているようで、どうもしっくりこないのです。

路上パフォーマンスの最後にアワビステーキが出てきました。あれは何千円もするでしょう。とても、私たちが普段食らべれるものではないから賞品ということになります。アワビのステーキをあのホテルで食べると7,000円とか1万円するでしょう。食べたいと思っているけど食べた事はありません。

日本にも素晴らしいことわざがあって、それを知ってもらうことは非常にいいことだと思います。若い人、これから育つ人にぜひ知ってもらいたいという意味ではいくつか見るべきものがあつたと思います。今、40代、30代、若い人たちでもことわざを知らない人が確かにいるので、そういう意味ではこの番組は価値があると思います。

ただ、もう1回これを見てくださと言われてちょっと抵抗を感じます。もうひとつ、番組を見て、意外さというものがありませんでした。ことわざの説明がありきたりの解説で、新しい部分や、思いがけないものがもっと出てこないとおもしろさがありません。ふざけの部分がかつと強調され過ぎていたように感じました。私は真面目に見てしまったことで、結果的にこういう評価になってしまったのかもしれない。

別な視点から見れば、また別な何かが出てくると思いますので、これを軸にしてもう少し真面目に、ふざけでない部分も入れながら、めんこいテレビ発のことわざ周知の番組があると、それなりに面白さが出てくるのではないかと思います。

ことわざに焦点を絞つたということで、番組を見ようとする人が多かつたのではないかと思います。私もタイトルに魅かれて見た一人ですが、その点は大いに良かったと思います。

#### ○中村委員長

どうもありがとうございました。それでは次は若手の方のご意見ということで、村上委員からお願いいたします。

○村上委員

若手と言われるとちょっとどうかなとは思いますが、そのような視点でお話が出来ればと思います。まずは番組制作、本当にお疲れさまでした。

とても博識な委員の皆様のご意見はその通りだと思いますが、厳しい審議会だと思います、本日は特に。

平日の夜7時台に番組を見ようと、めんこいテレビをつけたところ、吉本興業のバリバリの芸人さんたちがたくさんで来た、というインパクトは非常に大きかったと私は思いました。

山崎バニラさんの講談の回し方とか、メジャーの芸人さんはすごいなと思いました。ココリコの司会もいいなあと思いました。キー局の番組ではよく見るシーンですけれど、めんこいテレビが作った番組で、あれだけの顔ぶれが揃ってひな壇にならぶシーンは、迫力、そしてインパクトが非常にあったと思います。ことわざというものをテーマにして、こういう作りをしたことは、すごいチャレンジ精神だったと本当に思いました。前回の「ソフト工場」は地図をテーマにした内容に感心させられました。今回はことわざということで、どちらかという硬めのテーマをいろいろな見せ方をするという展開で、続けて同じような展開を「ソフト工場」で拝見したことによって、2つの番組に通じるものを感じることができました。

ことわざは私の世代ですとカルタとか、いろんな学習雑誌の付録についてきたので馴染みがありますが、今の子供は本当に目にも耳にもすることがないように思います。そのような中で、もちろん知って当然と思われることわざですけれど、それに触れることのできる非常に良い機会だったと思います。私も「二階から目薬」と何年ぶりに聞いたのだらうとお恥ずかしい限りです。そういう意味では小学生、中学生の子たちが、ことわざに触れる機会になり、お母さんたちも改めて「そういえば」ということで、家庭内で会話が盛り上がったお家もあるのではないかと思います。

MOSS ビルでロケをした時に、勤務先の事務所が近いのですけれど、スタッフの誰かが気がついて、会社に遊びに来ていた若い子たちがばあっと見に走りました。それほどインパクトがありました。岩手大学でも学生さんたちが集まってきましたけれど、そういった外とスタジオという流れも、緩急のようなものがあって良かったです。

千原せいじさんのウェディングケーキづくりは、意外な面を見る事ができましたし、最後に披露宴で完成したケーキは本当に素晴しかったです。あれもいろいろな仕掛けを準備されたと思いますけれど、完成して本当に良かったと思います。「三人寄れば文殊の知恵」で、あ

のような仕掛けをされたというのは、すごいなと思いました。

最後のことわざ学会では、真面目に審議されていたシーンがあったので、ちょっとホッとしました。認定されて良かったと思います。

番組はひとつずつのコントがあり、お医者さんによる裏づけの話があり、最終的にはことわざの説明と、大体2つ3つの要素でひとつのことわざを締めくくる、という作りでした。その要素ひとつひとつの長さは、ちょっと長かったかなとは思いますが、ポンポンポンといくところは行っていたように思います。私としてはお医者さんの話しをもっと聞きたいとか、さらにもっと意味を知りたいなという部分もありましたので、その辺の緩急があればもっと良かったと思います。いずれにしても本当にお疲れさまでした。

#### ○中村委員長

ありがとうございました。それでは東海林委員からお願いいたします。

#### ○東海林委員

目薬は昔、塗り薬だったということなのですが、5～6年前に私が眼科で目薬の塗り薬をもらったことがありました。まず下瞼に塗りまして、次に目を閉じていてください、と言われて、それが眼球に浸透しますからということだったのです。今でも、もしかして塗り薬の目薬は使っているかもしれません。それほど昔ではなく、実際あるものはあります。

番宣というのですか、実際の番組の前に番組宣伝のためのコマーシャル的なものをめんこいテレビさんの番組の中で見て、これは面白そうだなと本当に思っていました。企画としてはおもしろい着眼点だなと思って期待していました。

ことわざに興味を持ち始めた私の子供たちは、見ていて本当に面白いと言うのです。実際にオンエアの時にも見ましたし、今回ももう1度子供と一緒に見たのですけれど「面白い？」「どこが面白いの？」と聞いたところ、「本当に二階から目薬をさすなんてすごくいい。」とのこと。やってみたかったのだそうで、番組で実際にやってくれて嬉しい、とのことでした。

中学校の1年生と小学校の5年生には非常に好評でしたが、私はどちらかということ、ちょっと途中で飽きてしまった方です。今回のこの番組の中で取り上げられていることわざは、芸人さんが体当たりでできそうなもの、ということに主眼が置かれて選ばれている感じがしました。「もっと実証してほしいことわざがあるのになあ。」というのが私の感想です。

実は専門学校では、就職試験対策で一般常識の科目の中で、いろいろなことわざが出るの

です。いつもやっているわけではありませんが、そういう授業もたまにあるのです。そのなかで学生たちが書けないことわざに「雨降って何とかが固まる」があります。穴埋め形式で「何が固まるのでしょうか？」という問題があるのですが、本当に書けないのです。例えばこの番組のように、実際に芸人さんにはやってもらうことはできないことわざですけれど、雨が降って何が固まるのだろうか？何で、雨が降ると地面が固まるのだろうか？というようなものを私は期待していました。

例えば、他局で恐縮ですが、土曜日の深夜の番組で視聴者からの疑問点に対して、実際に答える番組がありまして、この間見たその番組で「大阪ではアホと言いますが、東京では馬鹿と言います。その境界線がどこにあるか調べてください。」という問題がありました。実はその番組の中で岐阜、名古屋の辺りで「たわけ」という言葉が新たに出てきて、その調査内容が社会学的にも興味深い統計資料になったということでした。

ことわざの番組もせっかくのいい企画なので、何か子供だけでなく、大人も興味深く見ることができて、「なるほどこういうデータが現在でも生きているんだ。」というように実証できる番組だったならば良かったと思います。私は45歳ですが、もうちょっと私たち位の年代でも「ああ、おもしろいな、いい番組だったな。」と思えるような企画にしていただけならと思いました。ちなみに「芸は身を助ける」は、本業以外の芸が、何かでピンチに陥った時に身を助けるという意味だと思っていましたので、本当の芸人があの芸をやってもちょっと意味が違うのではないかと思ったりもしました。ぜひ違う角度からこういうことわざ番組をまたやってもらえたら嬉しいと思います。期待しています。

#### ○中村委員長

ありがとうございました。それでは続いて久慈委員、お願い致します。

#### ○久慈委員

委員のなかで唯一の30代でございます。お歴々の皆さんは、ビデオが届いてそれを見て物をしゃべっていらっしゃるから駄目なのです。タイトルに「ことわざは一見に如かず ことわざ実証バラエティー」と書いてある通りで、NHKのような番組を期待してしまうと駄目なのです。バラエティーだということを前提に見ることです。

もうひとつ、今、吉本の芸人を使わないで視聴率を取れる番組はありません。はっきり言うと、これは吉本の芸人を使わなければいけない、という前提も理解して見なければなりま

せん。そういう訳で、たぶん菅原委員は文句を言うだろうとか、いろいろと私は予想できた番組でした。

バラエティーの中で真面目な部分も取り入れて、分からない人に分かってもらうとか、いろいろと考えられて作られた番組だと思います。私は午前中にDVDで見てしまって違和感がありました。午前中、しかもカラッととても晴れた午前中に見て、これは19時からの番組だから金曜日の夜、飲みながら見ることを前提とした番組だな、と思いました。そこで飲みながらもう一回見直しました。メッチャ笑いました。すごく楽しかった。知らないことも多々あったし、なるほどなと思ったこともありました。

ひとつだけ、単調過ぎたというところは私もわかります。吉本の芸人はおもしろいものだけ、飽きますよね、そればかり1時間だと。ここにもっと菅原委員のような人を入れて、「馬鹿やろう、何言ってるんだお前ら。」とか。「お前ジャズも分からないくせに、ことわざ知ろうなんて何事だ。」ぐらいに言える人が出演すると面白いと思います。

流れから言ってスタジオで収録して、目薬の実証実験になっています。最初は2つ続けて実証実験でした。あれは1つでよかった、目薬だけでいいと思います。その次からもっと盛岡や岩手を絡めた作りにして、結婚式と同じようなパターンが続いてはいけませんが、次第に引き込まれていって、最後のウェディングケーキで感動のシーンへとという作りにしたらどうでしょうか。そういう風に組み立てていくとして、盛岡とか岩手をもっと入れていくとすると、東京のスタジオがちょっと多かったかなと、思いました。実証実験の目薬は超面白かったです、面白いけれどスタジオが2回だと飽きてしまいます。

「芸は身を助ける」の路上ライブですけれど、あれを実際に見た人はラッキーです。そんな1円とか100円のレベルではない人の芸をちゃんと見られたのだから、それは良かったと思います。そういう芸人さんが好きな世代の人たちが、ことわざに興味をもってもらうことを目的にしているのであれば、いい番組だったと思います。でも、岩手をもっと絡められると良かったですね。せっかくめんこいテレビが作るのだから、路上ライブの「芸は身を助ける」とホテルの「三人寄れば文殊の知恵」の他に、あと1本ぐらい岩手ロケを増やしてやればもっと良かったと思います。

こういう番組はどんどん審議会の議題にするべきだし、番組審議委員に私より若い人が未だに入っていないので、若い人も入れたほうがいいと思います。

実際、こういう番組から覚えていく事がすごくあると思います。私の子供は小学校の1年生ですけれど、他局の番組で申し訳ありませんが、「仮面ライダー」とか「シンケンジャー」

を見て、侍になりたいとか、火とか土とか、天とか言葉の意味を調べ始めて、次第に書けるようになりました。そこまで幼稚でなくてもいいけれど、そういう世代に訴える力があってもいいと思います。私だったらと、いろいろなことを考えました。学校に行くとか、学校のことわざ部とか、学校の難しい国語の先生と吉本の芸人とを番組に出して、全然かみ合わないところをやったりしたら、また面白い。いろいろ巻き込んだほうが、岩手で作る番組になるのかなと思います。ぜひ、今度は菅原委員のような方を番組にお呼びしてください。「寝たよ俺は」などと菅原委員が番組で言ったら、すごく面白くなると思います。以上です。

#### ○中村委員長

ありがとうございました。続いて椎井副委員長、お願い致します

#### ○椎井副委員長

再び50代に戻って参りました(笑) 私もきつと真剣に見たのでしょう。私はたまたま先週の土曜日に、めんこいテレビの社長と某所でお会いして「次の番審のコメントは大変なんだよね。」という話しをしたら、社長も「きっとそうでしょう。そうでしょう。」と言っていたので安心しました。先ほど、菅原委員の話して辛口の批評が生まれて、私も安心しました。

その前に高橋さんから「FNSソフト工場」の番組の目的が、良質で視聴率も得られる番組というお話があったので、両方バランスを取るのは大変だろうなと思いました。

それから放送時間帯がゴールデンタイムということで、まず良質よりも視聴率が商売上優先されるのかなと思っておりました。私もこの種の番組はなかなか見られないので、今回見させていただいて大変感謝しております。

見た感想ですが、時間が非常に長く感じられて、これは菅原委員と丸つきり同じでした。ちょっと馬鹿馬鹿しいなという思いも一部にございました。でも、先ほど、この番組の制作の目的の中で、局の人材育成も大きな目的だとお聞きしておりましたので、皆さん、一生懸命汗を流しながら番組を作ったという成果は、ここに現れていると思いました。今後、大いにこういった経験を次の機会に活かしてもらうように期待したいと思います。

内容的には委員の皆さんが仰ったことと同じ事が多いです。取り上げられたことわざは、普段使っているものが多かったものですから、もう少し聞き慣れないことわざで驚きとか、新たな発見が得られるようなことわざをピックアップしてもらって、その背景なり解説、実証をしてもらった方が良かったのではないかと思います。繰り返しますけど良質で視聴率

を取れるという目的で、しかもこの時間帯ですと、どうしても娯楽的要素が多くなりがちかなと思いました。もう少し別な時間で流した方が良かったのではないかという思いもありました。

#### ○中村委員長

ありがとうございました。最後に私からですが、年の割にはテレビ好きです。こうしたバラエティー番組も時々見ておりますが、家内には馬鹿にされています。

それにしても最初は、この番組の中に入って行きづらかったですね。何の予備知識もなく見ると、講師が出てきて次々にやるけど何をやろうとしているのか、何を言いたいのか分からず、最初ちょっと抵抗感がありました。

見ていったら「芸は身を助ける」のところで盛岡の街が出てきて、けっこうあれは面白く見ました。ただ、見ていくうちにだんだん尻つぼみになっていくのです。最初、岩手大学で学生たちの前でやって、その次はMOSS ビル。あそこでちょっとオバさんが出てきて面白い反応をしたりして。次の盛岡城跡公園のところで、ひとりになって誰も集まらなかった。で、肴町商店街。これはもっと集まって面白かった。あそこは警備員ばかり目立っていて、あのような演出はいりません。黙って彼に通行人が通る前でやらせて、どれだけ人が立ち止まってやるかというところを見せればよいのです。しかも、盛岡の人は割とああいう時は冷淡に通り過ぎる人が多いと思うので、それをどれだけ引きつけられるかを見せてもらったら、もっと面白かったと思います。もし警備員を撮るなら最後のところで、影にこういう人がいたので1,000円ずつ頂戴という仕掛けでも良かったのではないですか。もう一押し二押し、構成、作り方に工夫があったならば、あの路上ライブが面白くなって、盛岡をもうちょっと訴えられたかなと思います。

それから「三人寄れば文殊の知恵」これは3人がそれぞれ勝手なことをやって作ったという感じで、三人寄ればというところがよくわからなかった。文殊の知恵を出した、例えばあれも3人の人が相談をして、こうやろうよという場面があって、それを苦労しながら作っていったら最後、感激させる、というような作りにするなり、もう一押し、二押しあってもいいと思います。作る時の準備不足、構成する時、企画する時の準備不足が番組づくりの上であったのではないかという感じがして拝見しました。

全体的には、先ほども言いましたが、最初ちょっと戸惑いもありましたし、見ているうちにダラダラとしてきて寝てしまいました。翌日、これはいかんと思って、最初ワッと見てい



ましたけれど、同じような場所、後半の「三人寄れば文殊の知恵」の辺りで、うつらうつらして気が付いたらだいぶ番組が進んでいた経験をしました。私も午前中に見たからでしょうか。酒を飲みながら見れば良かったのかもしれませんが。全体的には、先ほど鎌田さんがちょっと散漫になったと仰っていましたが、締まらなかったというか、デレデレデレと流れてしまったという感じがしました。それが私を寝かせた。本当はバラエティーも嫌いではないので、面白く作っていただければ最後まで見て、ここで久慈さんと同じぐらい絶賛したのかもしれませんが。残念ながらそういう感じでした。せっかくですから、今度は中味を時間をかけて吟味し、構成を十分考えれば、もしかしたら面白いものになったのなと思いました。

一言申し上げたいのは「二階から目薬」の実験で、これは上から目薬をやっているうちはいいですけど、水をバアッと掛けるああいう大げさなところはどうかでしょうか。あれは吉本の得意なところかもしれませんが、あの辺まではまあ我慢できる。あれは子供さんに「真似しないように。」というテロップを出していました。その後の「喉元過ぎれば」あんな熱いものをぐんぐん食わせて、あれでまた同じテロップが出ましたけど、あれは子供達が見ている前では止めた方がいいと思います。あの場面でけして済みません。下手をするとあれははじめの時のヒントになります。子供をいじめる時に、あれを使ってやろうというような、どこかに悪ガキが出てくる可能性があります。そういうことに発展すると非常に問題があるので、同じ「真似をしないで下さいね。」というにしても、私はちょっと行き過ぎだと感じました。その辺は作る上で少しご注意いただいた方がいいと思います。

最後は「芸人増えれば温暖化」。これは温暖化を奨励しているのか、何をしているのかよくわからない。もう少し何か言い方はないものか。彼がポッと言ったのをそのまま取り上げたのでしょうか、本当は温暖化というのは何なのかとか、もう一ひねりあっても良かったですね。もし、これがあらかじめ構成してこういう風に言ってください、と言っているのであれば、もう一ひねり、二ひねりしてやれば最後が締まったという感じがしました。そういう意味では全体的にせっかくいいことわざを皆に分かり易く伝えようという企画を取り上げているながら、お作りになっている方々がやっぱりまだ若いのかな。と思いました。もうひとひねり中味を吟味されたら、もしかしたら私は喜ぶでしょう。中原委員とか、菅原委員はどう思われるかはわかりませんが、面白い番組になったのではないかと、という気がしました。

それでは欠席委員からのレポートがあれば、事務局から報告をお願いします。

## ○事務局

役重委員と吉田委員からレポートが届いております。

## ○役重委員レポート

ぱっと見た印象ですが、画面のレイアウト、色使いがとてもキレイで鮮やかでした。スタジオセットのカラーリングも素敵です。こういうのはデザイナー、美術担当のセンスなんدهしょうか。たとえば適当かどうか分かりませんが、松竹の歌舞伎座に出かけて、清元の音曲とともに幕が開き、さんさんと光あふれる艶やかな彩りの舞台が観客の目の前に現れた瞬間の、あの高揚感を連想しました。テレビもアートとして進化しているのですね。

内容はお笑い系なのでまあ批評は難しいですが、あえて2点あげれば、ひとつは「ノド元過ぎれば」で熱いものを飲み込むシーン、あれは良くないです。私は小さい頃から猫舌の反対で熱いものを結構平気で飲んだりするたびに母親に怒られました。いわく、口の中が熱く感じるのは、食道や胃の壁が鈍感なため気づかずに火傷するのを防ぐため、敏感な口や舌で守っているのだと。食道がんになるぞ、と。いくら「良い子の皆さんはマネしないで」といってもテレビで平気でやっていたらマネしたくなるでしょう。再考をお願いしたいです。

もう1点は、番組が全体に長すぎると思います。軽いタッチで笑わせるものなら、ことわざの実証は1つ2つで十分です。芸人の人数分だけ出番を作らなくてはという配慮にも見えました。今のお笑いさんたちは脇役、相手を引き立てる巧みな話術や人間力の部分で笑いをとれない。オレがオレがという、主役張りでなければ笑いがとれない。これは見ていて結構疲れます。

野牛アナの天然キャラ、存在感、芸人さんたちよりも良かったですよ。これからもがんばってください。

## ○吉田委員レポート

タイトルを見たときからこれは面白そうだと引きつけられ、自分がどれだけ知っているのだろうと興味が湧いてきました。この番組を見たことで何かスラスラと“ことわざ”を使いたくなるような思いまでさせてくれました。

ちょっと気になったことは面白おかしくことわざの真相に迫るのはいいとしても、悪ふざけの部分や危険を伴う部分はあまり関心しない部分だと率直に思います。熱いものを飲み込んだら喉に悪いことは医者には聞かずとも解ることですし、二階から目薬なんて、これは大変

危険だ。子供が真似をして事故が起きかねない。バラエティーといってもちょっと度が過ぎると、せっかくの番組の質を落としかねない。

全体を通して世界のことわざも含めて“ことわざ”のもつ意味をきちんと伝えられており、面白おかしく飽きさせずに笑いを誘う、楽しい肩の凝らない番組でした。

○中村委員長

ありがとうございました。

皆様、何か他に言い足りなかったことはございませんか？

○八木橋委員

予算がかかるだろうなと思いました、あれだけ芸人を出すと。あの番組の中で非常に面白かったのは、西洋のことわざをひきましたよね。ルーツ調べをやったらおもしろいのではないかと思いました。例えば「三方一両損」とか、「二人の母親の子どもの取り合い」とか、あれはソロモン王の知恵と出典が出ているけれど、その元が「ギルガメッシュ文書」です。中国を経て入ってきて、その後の時代に、全部講談とか落語になっている訳ですね。ああいうルーツ調べをやったら面白いのではないかと思いました。あれを見ていて非常にいい着眼点だと思いましたが、そこがちょっと短かった。案外ルーツ調べはいけるのではないかと、番組を見ていて思いました。提案です。

○中村委員長

どれぐらいの時間をかけて最初の企画から制作までやったのですか？

○高橋担当部長

昨年11月に、めんこいテレビで今回の企画をやることになりまして、年が明けてから具体的なことわざの選定と内容の詰めに入りました。実際には盛岡での撮影は3月です。4月中旬にスタジオ収録がありました。放送は6月5日ですが、フジテレビにはその前の月の中旬までに納品しなければならないという決まりがあります。そこから逆算しての5月中旬までに納品しなければならないというスケジュールでした。

○中村委員長

中味をもう少し詰めていろいろと、もっとああしよう、こうしようという議論はどのぐらいやっているのですか？ 放送作家ですか？

○高橋担当部長

1 月末から徐々に始めまして、実はVTRの路上ライブとか、「三人寄れば文殊の知恵」とか、ひとつだけでも実は1時間番組が作れるぐらいの分量を撮っています。あとはいろいろな仕掛けをして構成をしました。反省点として、いろんなことをやり過ぎて、いざそれを切る段階で、どれを切ればいいのか、最初にあまりにもたくさん仕込み過ぎたことで苦労した所があります。

○中村委員長

また再度、チャレンジするのであればじっくり時間をかけていい番組を作っていたきたい。これで本日の番組審議委員会を終了させていただきます。

○事務局

ありがとうございました。では本日の番組審議会をこれで終了いたします。

なお、今回の審議会の模様は7月25日（土）朝4時30分から「めんこいテレビ批評」として放送いたします。

8月は恒例で審議会はお休みとなっております。

次回は9月8日（火）に開催となりますので、よろしくお願い致します。

## 7. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置

特になし

8. 審議機関の答申意見概要を公表した場合におけるその公表内容、方法及び年月日

\*平成21年7月15日(水) 産経新聞 東北

\*平成21年7月25日(土) 午前4時30分から4時45分まで「めんこいテレビ批評」内で放送

\* 据え置き書類を作成し、本社受付に置き一般の人々が自由に閲覧できるようにした

9. その他の参考事項

特になし